

## 1、現状の説明

### (1)学生の受け入れ方針を明示しているか。

#### 【短期大学全体】

本学は、学生の受け入れ方針を HP 上で明示しており、自由に閲覧できるようにしている（資料 5-1 本学 HP「教育研究を始めとする各種方針」）。仏教科、幼児教育保育科の項目別に「学生の受け入れ方針」の詳細を記す。なお、2015 年度入試からは、「入学試験要項（願書）」にも記載し、広く周知できるようにしている。

障がいのある学生の受け入れに関しては、入学制度委員会が中心となって「障がいのある学生の受け入れ方針」（案）を作成し、大学運営会議に諮り決定した。その後、教授会及び部課長会議で報告し、教職員で共有すると共に本学 HP 上で学外に向けて公表している（資料 5-2 本学 HP「障がいのある学生の受け入れ方針」）。

#### 【障がいのある学生の受け入れ方針】

入学希望者によって記入されたインテークシートの内容、また事前の入学希望者と学科並びに関係部署との話し合いに基づき、本学は可能な限り、障がいのある学生を受け入れる。

#### 【仏教科】

仏教科の学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）は、2013 年 6 月に一新し、2014 年度から、本学 HP に明示している（資料 5-3 本学 HP「学生の受け入れ方針（仏教科・幼児教育保育科）」）。教職員には、教授会及び部課長会で報告し、共有している。

#### 【大谷大学短期大学部仏教科 学生の受け入れ方針】

(AP1) 高等学校で履修する国語、外国語などについて、高等学校卒業相当の知識をもつ。

〔知識・理解〕

(AP2) 物事をじっくり時間をかけて考察し、自分の考えをまとめることができる。

〔思考・判断〕

(AP3) 人間や社会について、自発的な関心から思索しようとする意欲をもつ。

〔関心・意欲〕

(AP4) 日本語を使用して、自分の考えを的確に表現することができる。〔技能・表現〕

また、各種入学試験は、それぞれの制度のねらいに応じて、(AP1)～(AP4)の1つ、又は複数の項目に該当することを一覧表に明示している（資料 5-3）。

#### 【幼児教育保育科】

幼児教育保育科の学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）は、2013 年 6 月に一新し、2014 年度から、本学 HP に明示している（資料 5-3）。教職員には、教授会及び部課長会で報告し、共有している。

#### 【大谷大学短期大学部幼児教育保育科 学生の受け入れ方針】

(AP1) 高等学校で履修する国語、外国語などについて、高等学校卒業相当の知識をもつ。

〔知識・理解〕

(AP2) 物事をじっくり時間をかけて考察し、自分の考えをまとめることができる。

〔思考・判断〕

(AP3) 人間や社会について、自発的な関心から思索しようとする意欲をもつ。

〔関心・意欲〕

(AP4) 日本語を使用して、自分の考えを的確に表現することができる。〔技能・表現〕

また、各種入学試験は、それぞれの制度のねらいに応じて、(AP1)～(AP4)の1つ、又は複数の項目に該当することを一覧表に明示している（資料5-3）。

## (2)学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集及び入学者選抜を行っているか。

### 【短期大学全体】

本学の入学試験は、多様な特性を持った学生を選抜できるよう、各学科において複数の入試方式を導入している。入学試験の具体的な内容は、【仏教科】、【幼児教育保育科】の項目に記載する。

学生募集に関しては、大学案内やそのほかのパンフレットの作成、各種進学情報媒体への記事掲載、オープンキャンパスの開催、高校内ガイダンスの実施、高等学校訪問を行っている。広報の内容については、大学の理念を十分に伝えることができるよう入学センターで内容を毎年精査して実施している。

障がい者の受け入れについては、障がいのある学生の受け入れ方針に基づき、事前に「障がいについての予備調査シート（インタークシート）」の作成、面談を行い、入学試験時の配慮を行っている。配慮内容は大学入試センター試験時の配慮を原則に、論述試験等、本学の特有の制度にあわせて決定している（資料5-4「障がいについての予備調査シート（インタークシート）」）。

公募制推薦においては、福知山・金沢・名古屋・津・彦根・草津・大阪・岡山の各学外会場を、一般〔第1期〕においては、福知山・金沢・浜松・名古屋・彦根・草津・大阪・姫路・岡山・広島・高松・福岡の各学外会場を設置し、受験生の負担を軽減するとともに、遠方に居住するために受験が困難な受験生への受験機会の提供に努めている。

各入試制度の実施にあたっては、試験の透明性を確保するため、入試情報の公開を積極的に行っている。まず入学試験において、試験終了後は問題冊子の持ち帰りを認めている。入学試験結果（合否・得点）については、暗証番号を設定した情報公開システムにより個人宛てに公開するとともに、進路指導の必要上、高等学校への開示も行っている。ただし、個人情報保護には十分な配慮が必要であるため、高等学校への成績開示は本人にその可否を確認のうえ行っている。また、入学試験ごとの志願者数・受験者数・合格者数・入学者数や入学試験・学科ごとの合格最低点・平均点等を公表し、透明性と信頼性の確保に努めている。

### 【仏教科】

仏教科の学生の受け入れ方針は前述のとおり、(AP1)～(AP4)の項目を挙げており、これらの方針に基づいて、入学試験を実施している。

第1学年入学のための入学試験制度は、アドミッション・オフィス入試、自己推薦、公募制推薦、指定校制推薦、一般〔第1期〕・〔第2期〕、一般〔大学入試センター試験利用入試〕前期・後期を実施している。各入試制度では以下の内容で判定を行っている。

## 第5章 学生の受け入れ

### 【大谷大学短期大学部】

- ・ アドミッション・オフィス入試－エントリーシート、面接
- ・ 自己推薦入試－1200字の自己推薦書、面接
- ・ 公募制推薦入試－A方式 高等学校の評定平均値、小論文  
－B方式 高等学校の評定平均値、英語・国語
- ・ 指定校制推薦－課題図書を読む、小論文、面接
- ・ 一般入試〔第1期〕－英語、国語の2教科
- ・ 一般入試〔第2期〕－英語、国語の2教科
- ・ 一般入試〔大学入試センター試験利用入試〕前期・後期－大学入試センター試験の得点〔外国語、国語〕

それぞれの入学試験制度のねらいが、どのAPに該当するかは、一覧表にして開示している（資料5-3）。

#### 【幼児教育保育科】

幼児教育保育科の学生の受け入れ方針は前述のとおり、(AP1)～(AP4)の項目を挙げており、これらの方針に基づいて、入学試験を実施している。

第1学年入学のための入学試験制度は、アドミッション・オフィス入試、自己推薦、公募制推薦、指定校制推薦、一般〔第1期〕・〔第2期〕、一般〔大学入試センター試験利用入試〕前期・後期を実施している。各入試制度では以下の内容で判定を行っている。

- ・ アドミッション・オフィス入試－エントリーシート、小論文、グループディスカッション、面接
- ・ 自己推薦入試－1200字の自己推薦書、面接
- ・ 公募制推薦入試－A方式 高等学校の評定平均値、小論文  
－B方式 高等学校の評定平均値、英語・国語
- ・ 指定校制推薦－課題図書を読む、小論文、面接
- ・ 一般入試〔第1期〕－英語、国語の2教科
- ・ 一般入試〔第2期〕－英語、国語の2教科
- ・ 一般入試〔大学入試センター試験利用入試〕前期・後期－大学入試センター試験の得点〔外国語、国語〕

それぞれの入学試験制度のねらいが、どのAPに該当するかは、一覧表により開示している（資料5-3）。

**(3)適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。**

#### 【短期大学全体】

短期大学部全体及び各学科の入学者数、在籍学生数が入学定員・収容定員と大幅にかい離することがないように、学科の代表者で構成する学科主任会議での事前協議を経て、教授会において合否判定を慎重に行っている（資料5-5「学科主任会議規程」、資料5-6「大谷大学短期大学部教授会規程」）。

短期大学部の学科ごとの適切な入学定員・収容定員の設定については、入学制度委員会では検証するとともに、学長会において全学的な視野に立った原案を策定する。原案は、学

## 第5章 学生の受け入れ

### 【大谷大学短期大学部】

科での協議を経て、教授会で最終的に決定する（資料 5-7「入学者選考規程」、資料 5-8「入学制度委員会規程」、資料 5-9「学長会及び大学運営会議規程」）。

短期大学部における過去 5 年間の入学定員に対する入学者数比率の平均は、仏教科の定員未充足が原因となり 0.88 となっている（資料 5-10「入学定員に対する入学者数比率」）。

短期大学部における過去 5 年間の収容定員に対する在籍学生数比率の平均についても、仏教科の定員未充足が原因となり 0.89 となっている（資料 5-11「収容定員に対する在籍学生数比率」）。

#### 【仏教科】

仏教科における過去 5 年間の入学定員に対する入学者数比率の平均は、0.53 となっている。2008 年度に受審した認証評価において指摘された定員割れについての勧告、及びその後の改善報告書における継続課題として指摘された状況からは、若干の改善が見られるものの抜本的な改善には至っていない（資料 5-10）。

また過去 5 年間の収容定員に対する在籍学生数比率の平均は、0.55 となっており、若干の改善が見られるものの抜本的な改善には至っていない（資料 5-11）。

#### 【幼児教育保育科】

幼児教育保育科における過去 5 年間の入学定員に対する入学者数比率の平均は、1.03 となっており、各年度とも概ね適切に管理ができています（資料 5-10）。

また幼児教育保育科における過去 5 年間の収容定員に対する在籍学生数比率の平均は、1.03 となっており、各年度とも概ね適切に管理ができています（資料 5-11）。

**(4)学生の受け入れ方針に基づき、学生募集と入学者選抜を公正かつ適切に実施しているかについて、定期的に検証を行っているか。**

#### 【短期大学全体】

入学者選抜は、学長により任命された総括委員が、各種の入試問題の作成段階から実施段階に至るまでを統括し厳正に実施している。

学生募集については、入学センターが実務担当部署として募集計画を立案し、入学制度委員会において協議を行い、大学運営会議において決定し、その計画に基づき学科と事務部局が協同して実施する（資料 5-8）。

これらが公正かつ適切に実施されているかについては、検証組織である入学制度委員会において毎年行っている。

#### 【仏教科】

仏教科における入学者選抜及び学生募集が公正かつ適切に実施されているかについては、学科及び入学制度委員会において行っている。入学センターにおいてまとめた各種統計データをもとに、入試実施年の翌年 5～6 月に検証し、次年度に向けた強化策・改善事項を取りまとめる。2014 年度入試からは、学生の受け入れ方針を 2013 年 6 月に一新したことを受け、方針に基づいた学生募集と入学者選抜が公正かつ適切に実施出来ているかについての検証も合わせて行っている。

## 第5章 学生の受け入れ

### 【大谷大学短期大学部】

特に、学科の求める人物像と受験生との適合性を重視するアドミッション・オフィス入試について、第1次審査における書類審査で「意欲」「関心」「表現力」が評価できたかどうか、第2次審査における面接で、本学の教育理念を理解し、仏教科での学びに対する意欲や熱意、学ぶ力があるかどうか、宗教的・内発的な関心をもっているかどうかについて評価ができたかどうかを学科で検証し、その検証を踏まえ入学制度委員会で検討し、次年度に向けた強化策・改善事項を取りまとめる。これらについては、大学運営会議で最終決定し、教授会で報告し共有を図っている。

#### 【幼児教育保育科】

幼児教育保育科における入学者選抜及び学生募集が公正かつ適切に実施されているかについては、学科及び入学制度委員会において行っている。入学センターにおいてまとめた各種統計データをもとに、入試実施年の翌年5～6月に検証し、次年度に向けた強化策・改善事項を取りまとめる。2014年度入試からは、学生の受け入れ方針を2013年6月に一新したことを受け、方針に基づいた学生募集と入学者選抜が公正かつ適切に実施出来ているかについての検証も合わせて行っている。

特に、学科の求める人物像と受験生との適合性を重視するアドミッション・オフィス入試について、書類審査での「志望動機、課外活動や学校生活状況、自己PR」についての表現力、小論文審査での「要約力、思索力、表現力、独創性」、グループディスカッションでの、保育者として必要となる「協調性、積極性、コミュニケーション力、自己表現力」、面接での、本学の教育理念を理解し、幼児教育保育科の学びへの意欲や熱意、学ぶ理解力や表現力について、将来の保育者としての適性を考慮したうえで適切に評価ができたか等については、重点的に学科で検証を行う。その結果を踏まえて入学制度委員会で検討し、次年度に向けた強化策・改善事項が取りまとめられる。これらについては、大学運営会議で最終決定し、教授会で報告し共有を図っている。

## 2、点検・評価

### ●基準5の充足状況

教育目標に基づき、学生の受け入れ方針を学科ごとに定めている。あわせて入試方法の整合性・適切性が図れるよう各種入学試験制度と学生の受け入れ方針（AP1～AP4）の該当関係を一覧表にして明示している。これらの方針及び一覧表は、学科及び短期大学全体で共有するとともに、広く学外に発信し、公正な機会を提供できるよう努めている。また学生募集及び入学者選抜については、入学制度委員会で検証する体制を整えている。以上のように、本学では学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集及び入学者選抜を行っている。

過去5ケ年の入学者数比率・在籍学生数比率の平均は、幼児教育保育科が1.03で概ね適正に管理できているのに対し、仏教科は0.53と定員を充足できていない。仏教科の定員確保は重要な課題として、大学総合企画委員会の答申を受け、学長会で検討を進めている。

## 第5章 学生の受け入れ

### 【大谷大学短期大学部】

#### ①効果が上がっている事項

##### （受験生に対する公正な機会の保証）

本学を受験する障がいを持つ学生は増加傾向にあり、今まで以上に受け入れ体制や修学支援体制を整備することが急務となっている。そうした状況を背景として、「障がいについての予備調査シート（インタビューシート）」を準備し、共通のフォームにより障がいの状況の確認、配慮内容の検討が行えるようになった。また障がいのある受験生が不安を解消して相談・受験ができるように「障がいのある学生の受け入れ方針」を策定した。

#### ②改善すべき事項

##### （仏教科の定員の未充足）

仏教科においては、2006年から2014年にわたり入学定員が充足できていない。2008年度に受審した認証評価において勧告を受け、その後の改善報告書においても継続課題としての指摘を受けてきた。対策として、学科教員による学びの紹介（高校訪問や出張講義）、AO入試の実施時期の早期化を行った。また2013年度には入学定員を40名から20名へと適正規模に削減した。これらの取組を進めた結果、入学者数比率・在籍者数比率とも改善はみられるものの、抜本的な改善にはいたっていない。学科の改編等を視野に入れた具体的な方策を決定する必要がある。

### 3、将来に向けた発展方策

#### ①効果が上がっている事項

##### （受験生に対する公正な機会の保証）

障がいを持つ受験生に対する公正な機会を保障するために、入学センターが中心となっ  
て行なっている高等学校への説明会の機会等を通じて、本学が障がいを持つ受験生に対する事前相談の機会を設けていることを周知する。このことにより、当該受験生に受験前に事前相談の機会があることを知ってもらえるようにする。そして、当該受験生に本学の環境の確認や受け入れ方針を早い段階で知ってもらえるように、オープンキャンパスへの参加を促し、具体的に本学の受験を考えるに際し、早めに事前相談の機会を設けることができるよう取組を強化していく。

#### ②改善すべき事項

##### （仏教科の定員の未充足）

短期大学部仏教科として定員確保に至っていない現状を踏まえ、2014年5月、大学総合企画委員会を設置し、抜本的な改編について検討した（資料5-12「大学総合企画委員会規程」）。2014年10月に答申としてまとめ、それを受けて学長会で、具体的な改善方策を検討する。

### 4、資料

資料5-1 本学HP「教育研究を始めとする各種方針」（既出（3-1））

第5章 学生の受け入れ  
【大谷大学短期大学部】

<http://www.otani.ac.jp/annai/nab3mq000003cn7u.html>

資料 5-2 本学 HP 「障がいのある学生の受け入れ方針」

<http://www.otani.ac.jp/annai/nab3mq000003cn7u-att/nab3mq000003corz.pdf>

資料 5-3 本学 HP 「学生の受け入れ方針（仏教科・幼児教育保育科）」

<http://www.otani.ac.jp/annai/nab3mq000003cn7u-att/nab3mq000003cot3.pdf>

資料 5-4 「障がいについての予備調査シート（インテークシート）」

資料 5-5 「学科主任会議規程」（既出（3-10））

資料 5-6 「大谷大学短期大学部教授会規程」（既出（3-2））

資料 5-7 「入学者選考規程」

資料 5-8 「入学制度委員会規程」

資料 5-9 「学長会及び大学運営会議規程」（既出（1-13））

資料 5-10 「入学定員に対する入学者数比率」

資料 5-11 「収容定員に対する在籍学生数比率」

資料 5-12 「大学総合企画委員会規程」（既出（2-8））

資料 5-13 「大谷大学・大谷大学短期大学部 入学試験要項 2014 年度」

資料 5-14 「大谷大学・大谷大学短期大学部 指定校制推薦入学実施要項 2014 年度（一般校）」

資料 5-15 「大谷大学・大谷大学短期大学部 指定校制推薦入学実施要項 2014 年度（関係学校）」

資料 5-16 「大谷大学短期大学部 アドミッション・オフィス入試 [仏教科] 入学試験要項 2014 年度」

資料 5-17 「大谷大学短期大学部 アドミッション・オフィス入試 [幼児教育保育科] 入学試験要項 2014 年度」

資料 5-18 「大谷大学短期大学部 アドミッション・オフィス入試 入学試験要項 [別冊] 2014 年度」